

初期対応者および二次対応者向け情報

緊急対応マニュアル

SUBARU
・ハイブリッド車



V9100JJ

Ver.01

2026.06

目次

0. レスキューシート	2
1. 識別	3
2. 固定／安定／持上げ	7
3. 危険の排除／安全規制	12
4. 乗員へのアクセス	23
5. 蓄積されたエネルギー／液体／ガス／固体	33
6. 火災の場合	44
7. 水没の場合	46
8. けん引／搬送／保管	47
9. 重要な追加情報	56
10. 使用したピクトグラムの説明	57

はじめに

- 本書は、スバル車両においてレスキュー作業をする際の注意事項を記載しています。
- 安全に作業していただくために、本書をよくお読みいただき、スバル車両の構造／作動を理解頂いた上で作業を行ってください。
- 本書で掲載しているイラストは代表例です。また、車両ごとの部品や位置など、車両固有の情報については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

■ 安全に関する表示

警告



記載事項を守らないと、死亡や重大な傷害につながる恐れがあること。

注意



記載事項を守らないと、傷害や事故につながる恐れがあること。

参考

守っていただきたいこと。知っておくと便利なこと。

0. レスキューシート

- 各車両のレスキューシートは、以下のウェブサイトを確認できます。
 - <https://www.subaru.co.jp/products/rescue-hybrid.html>
- 本書で掲載しているエマージェンシーレスポンスガイドの対象モデルは以下のとおりです。
 - ハイブリッド車：
 - LEVORG LAYBACK HYBRID (2026年-)

1. 識別

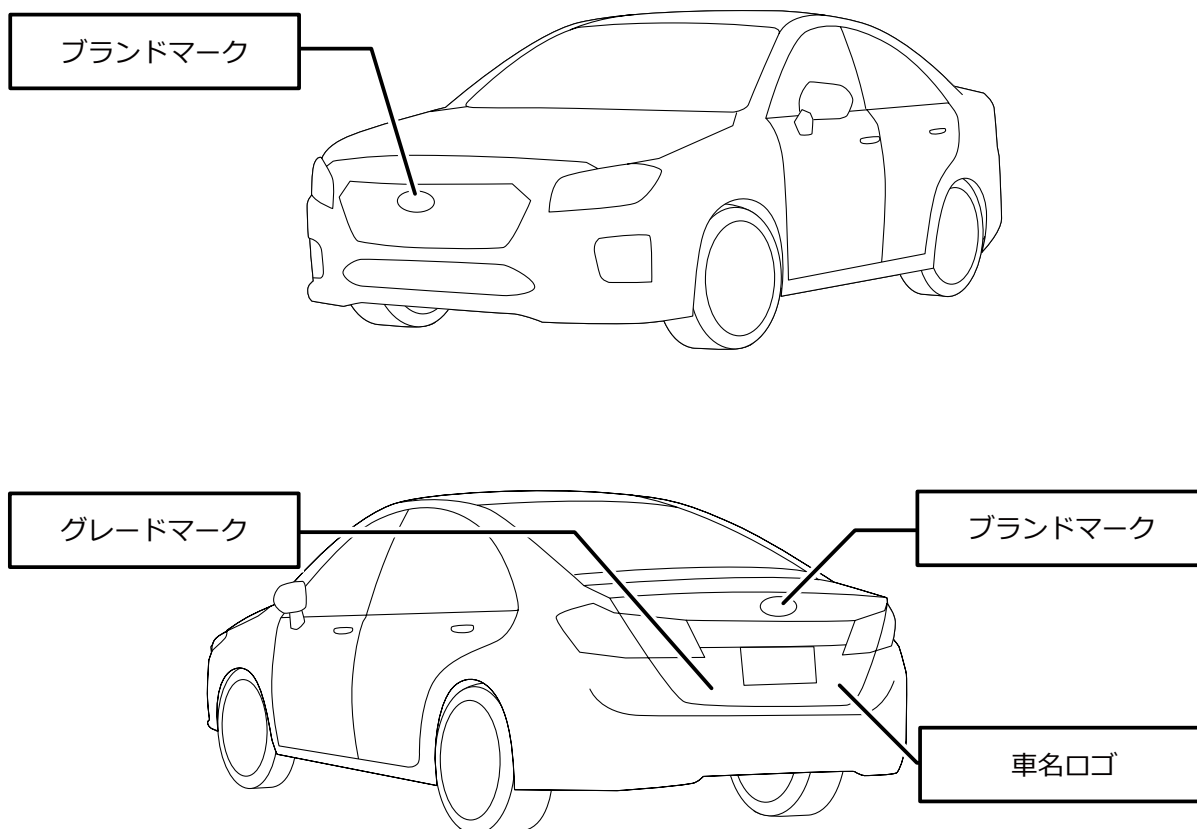
外観およびロゴ

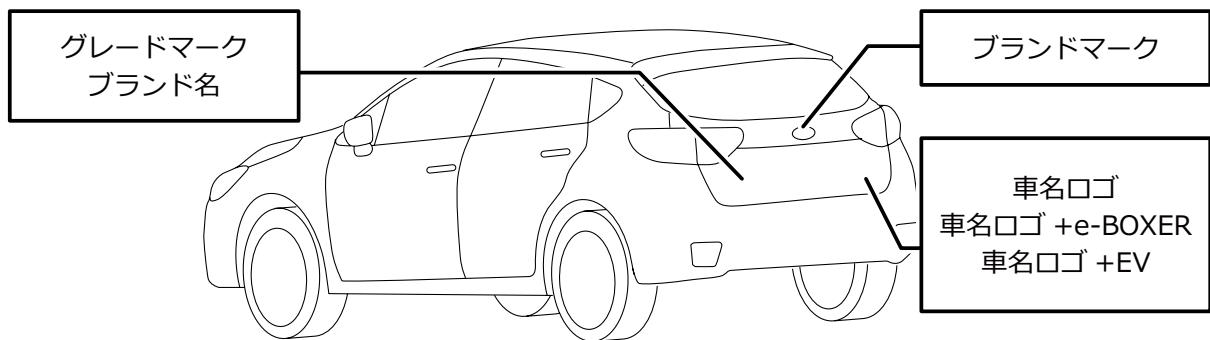
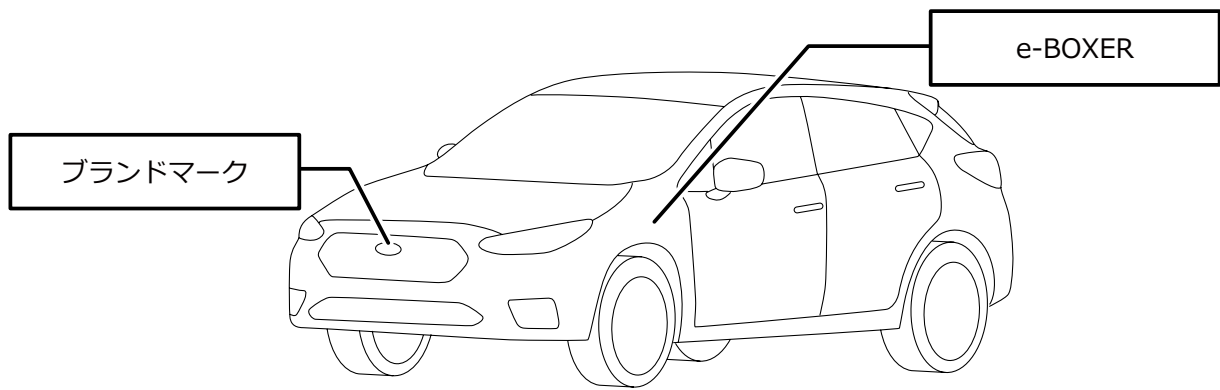
- 外観の特徴やボディのロゴマークなどの情報を基にして、車種の識別を行ってください。
- ロゴマークにはブランドマークや車名、グレードを示すマーク、ハイブリッド車を示すマークなどがあります。
- ロゴマークは、トランクやリヤゲート、フロントグリル、フロントフェンダーなどに取付けられています。

注意



エンジン音がしない場合でも、車両が停止しているとは限らない。車両が完全にシャットダウンされるまでは、無音での車両移動、または即時再始動の可能性がある。必ず適切な個人用保護具（PPE）を着用すること。



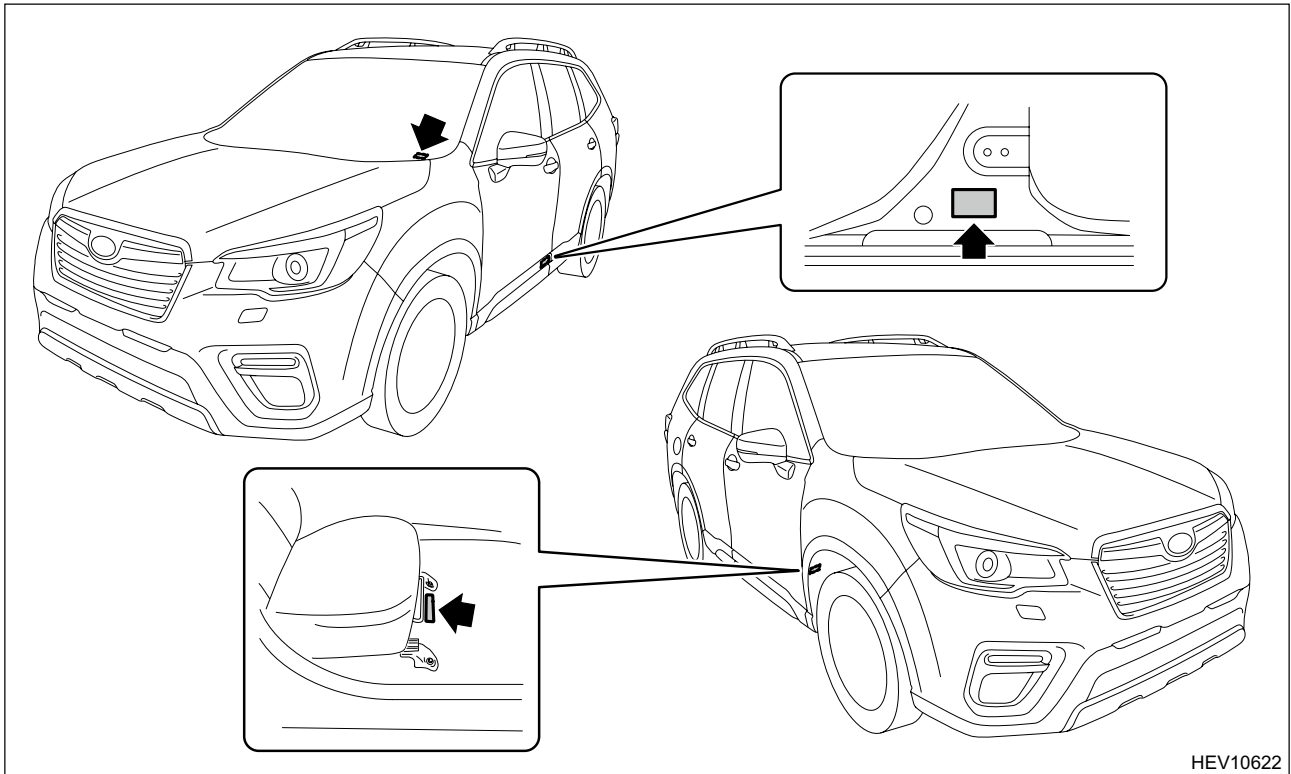


参考

各車両でのロゴマークの配置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

フレームNo.

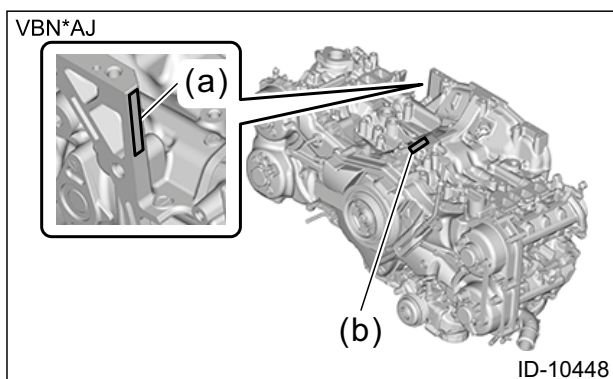
- ウィンドシールドガラスや助手席のフロア、BピラーなどにフレームNo.が記載されています。
- フレームNo.のハイフン前（○○○-△△△△△の場合には○○○の部分）の文字で車種を識別することができます。



エンジン型式

- クランクケースの上面にエンジン型式が記載されています。
- エンジン型式の5桁目（△△△△○△△△△の場合には○の部分）の文字でハイブリッド車を識別することができます。

W：ハイブリッド車

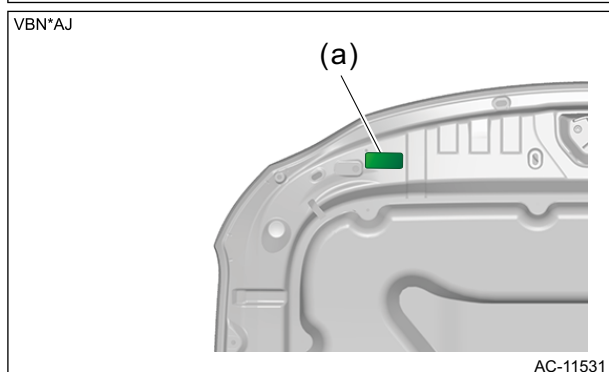
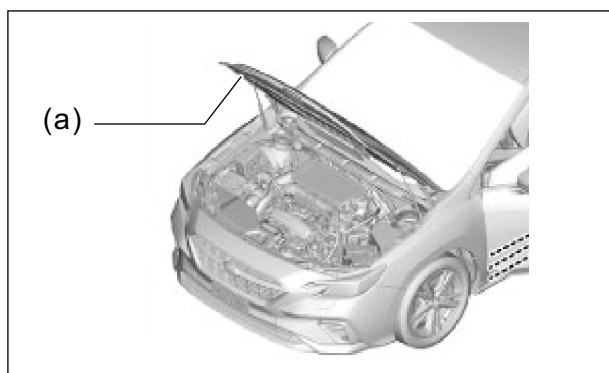


(a) エンジン製造号機 No.

(b) エンジン型式（クランクケース上面）

A/Cシステムの冷媒

各車両に使用している冷媒の種類が記載されています。



(a) ラベル

バッテリー搭載位置

各車両でのバッテリーの配置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

2. 固定／安定／持上げ

車両を完全に固定する

警告



ハイブリッド車（HEV）および電気自動車（EV）は、関係者が車両から離れるようなケースでは、他の人が知らずに触れてしまい、感電による重大な傷害や死亡といった事態が発生する恐れがあります。そのようなときは、周囲の人に注意を喚起するため、「高電圧作業中・触るな！」の表示を行ってください。（P36 をコピーして活用してください）

参考

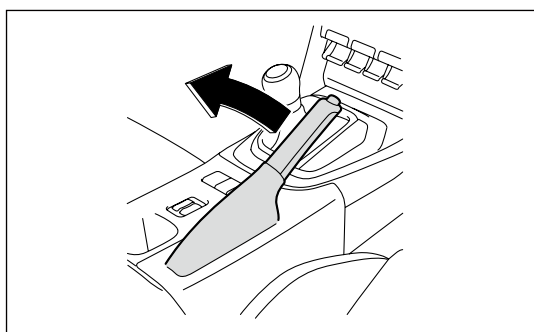
ガソリンやオイルなどの油脂類などの流出を防ぐために、車両を周囲に火気および可燃物のない平坦な場所に移動させてから作業を行うことを推奨します。

1. 車輪止めをしてパーキングブレーキをかけてください。

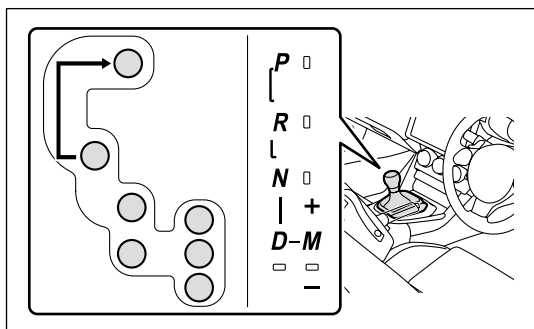
パーキングブレーキの固定方法は下記の種類があります。仕様に応じて操作を行ってください。

■ 手動パーキングブレーキ

- ① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルをしっかりと踏込んだ状態で、パーキングブレーキレバーをいっぱいに引き上げます。



- ② セレクトレバーをPポジションに入れてください。（オートマチックトランスミッションモデル）

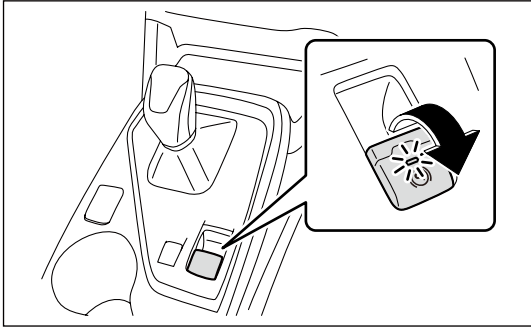


■ 電動パーキングブレーキ

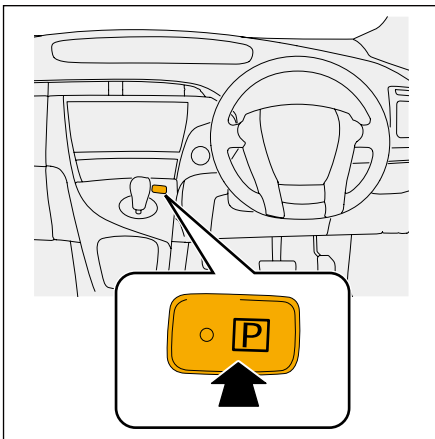
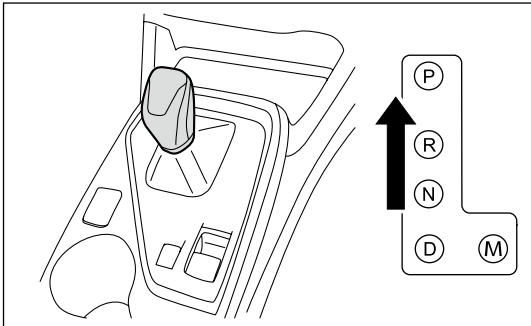
参考

バッテリー（12V）が接続されていないと、操作できなくなります。
バッテリー（12V）の端子を切離す前に、作業を行ってください。

- ① 車輪に車輪止めをつけ、パーキングブレーキをかけてください。



- ② セレクトレバーをPポジションに入れる、またはPポジションスイッチを押してください。



2. 救助活動を行うために、必要に応じて、ドアガラス開放やドアロック解除、バックドア開放などの事前処理を行ってください。

参考

下記のシステムはバッテリーが接続されていないと、操作できなくなります。

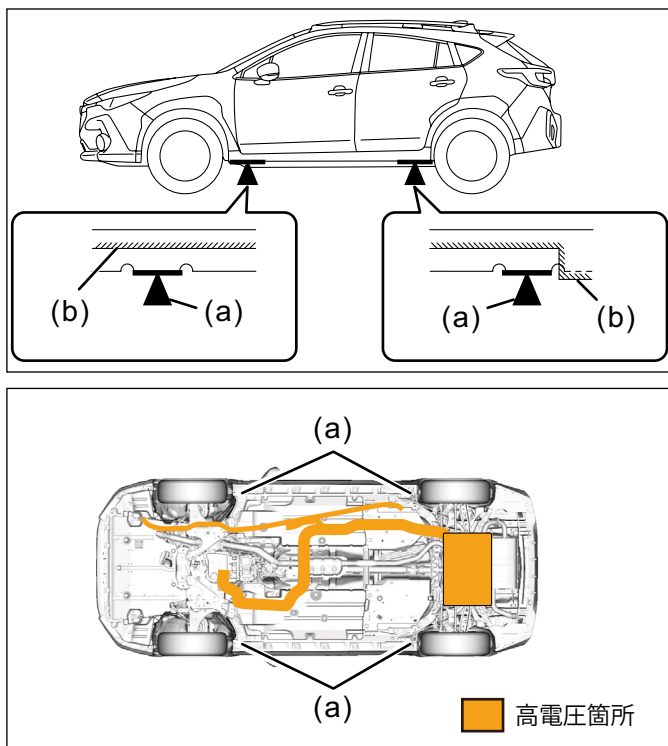
- ・パワードアロック
- ・パワーウインドウ
- ・リヤゲートオープナー
- ・電動パーキングブレーキ
- ・パワーシートコントロール
- ・トランクオープナー
- ・エレクトロシフトマチック

安定したジャッキアップポイント

車両の安定化

サイドシルの直下の4箇所でジャッキアップを行います。

オレンジ色で示された高電圧ケーブル、エキゾーストシステム、または燃料システムの下にジャッキを置かないでください。



(a) ジャッキ支持位置

(b) サイドシルガーニッシュ

参考

各車両での高電圧部品の配置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

ガソリンやエンジンオイルなどの物質が漏れ出すのを防ぐため、作業を開始する前に、周囲に火気や可燃物のない平坦な場所へ車両を移動することを推奨します。

エンジン始動状態の確認

- 安全に救助作業を実施するために、作業開始前に車両を完全に停止させて、燃料ポンプ、SRS エアバッグ、高電圧バッテリーなどの電力を遮断する必要があります。
- 車両の状態を確認し、下記の項目が1つでも当てはまれば、車両が起動状態である可能性があります。

エンジンが動いている

イグニッションキーの位置が“ACC”、“ON”、“START”のいずれかにある

メーターが点灯している

エアコンが起動している

ワイパーが作動している

ナビやディスプレイが表示されている

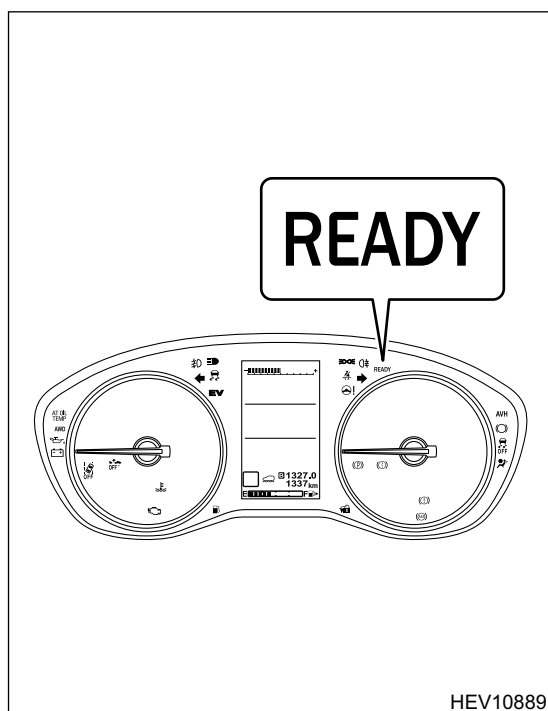
充電ケーブルが接続されている

参考

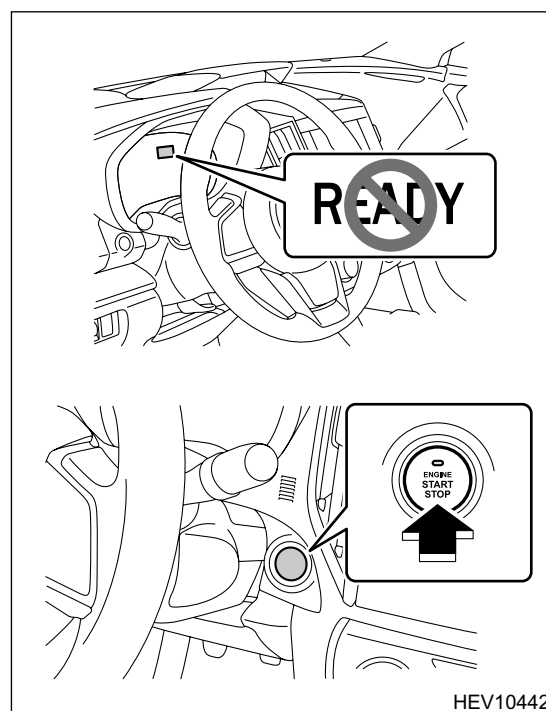
車両のエンジンを止めて12Vバッテリーを切離す前に、必要に応じて、ウインドウを下げ、ドアのロックを解除し、リヤゲートを開け、パワーシートを動かしてください。12Vバッテリーを切離すと、電動制御は動作しません。

1. コンビネーションメーター内のREADY表示灯の状態を確認します。
2. READY表示灯が点灯している場合は、車両の電源が入っており動作可能です。プッシュエンジンスイッチを1回押して車両のエンジンを止めます。

▼ INTELLIGENT BOXER システム READY 表示灯



▼ 車両エンジン停止 (INTELLIGENT BOXER システム READY 表示灯消灯)



上の図は代表例です。一部のモデルでは、コンビネーションメーターが、図示されているものとは若干異なる場合があります。

3. 危険の排除／安全規制

警告



- 高電圧システムは、車両の停止後、最大で約 10 分程度電圧を保持しています。高電圧システムが停止状態になっていないと、高電圧による重度の火傷および感電により重大な傷害につながり、最悪の場合、死亡に至る可能性があります。
- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品（高電圧バッテリーなど）に触れないでください。
やむを得ず触る場合または触れる恐れのあるときは、絶縁手袋を着用し、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品を絶縁テープで絶縁してください。
- 必ずメーター内の READY 表示灯を確認して、高電圧システムが起動状態であるか停止状態であるかを判断してください。READY 表示灯が消灯している状態が高電圧システムの停止状態です。
- 充電ケーブルが接続されている場合は READY 表示灯が消灯している状態でも高電圧システムは起動状態である場合があります。充電ケーブルを外してから作業を行ってください。

エンジン始動状態の確認

電源状態の確認方法については、「電源状態の確認」(P11) を参照してください。

車両の無効化

■ 電気自動車

警告

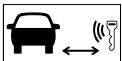


重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品（高電圧バッテリーなど）に触れないでください。

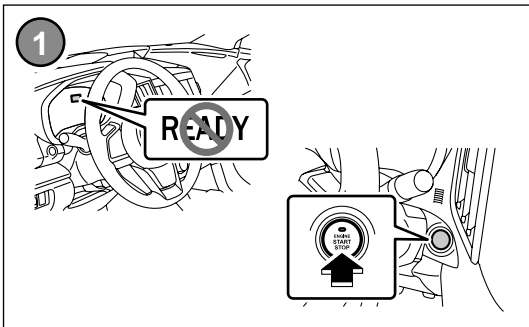
やむを得ず触る場合または触れる恐れのあるときは、絶縁手袋を着用し、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品を絶縁テープで絶縁してください。

1. 高電圧回路の遮断および 12 V 回路の遮断手順

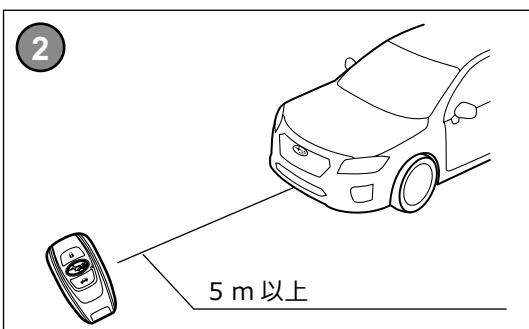
<イグニッションスイッチ OFF> : 高電圧回路と 12 V システム回路を OFF にします。



- ① READY 表示灯が消灯しているか確認します。点灯している場合は、プッシュエンジンスイッチを押して、電源を OFF にします。



- ② アクセスキーを 5 m 以上離します。



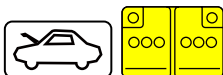
2A. 12 V 回路の遮断

注意

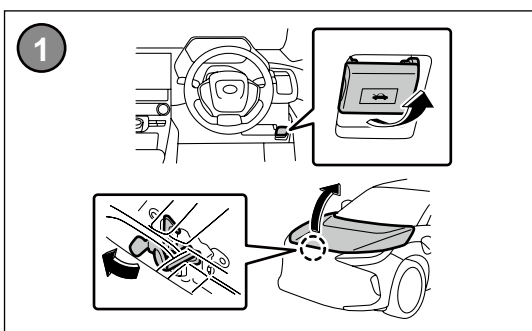


12 V バッテリーのアース端子を切離すことができないと、12 V 回路は遮断できません。短絡やハーネスへの衝撃により SRS エアバッグシステムが突然展開して重傷を負う場合があるため、作業中は注意してください。

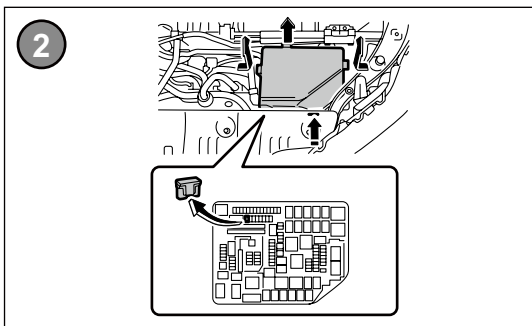
<バッテリーセンサーからアース端子を切離し>



① エンジンフードを開きます。(P26 参照)



② ヒューズを取外します。



参考

各車両でのヒューズの配置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

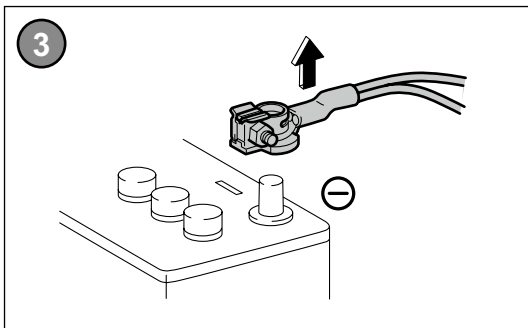
注意



該当のヒューズが確認できない場合、または判別が困難な場合は、下記の項目が全て当てはまるようになるまでヒューズボックスのヒューズを取外してください。

- メーターが消灯している
- エアコンが作動していない
- オーディオが作動していない
- ワイパーが停止している
- ナビやディスプレイが表示されていない

③ バッテリーマイナス端子を切離します。



注意



- 電気系統を遮断することにより、車両の再起動および電気火災の発生を防止します。
- 統合キャパシタ電源は、12V バッテリーのマイナス端子を切離し電源を遮断した後、最大 10 分程度、統合キャパシタ電源のプラス⇄マイナス端子間に約 12V の電圧が保持されます。

■ ハイブリッド車

警告



重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品（高電圧バッテリーなど）に触れないでください。

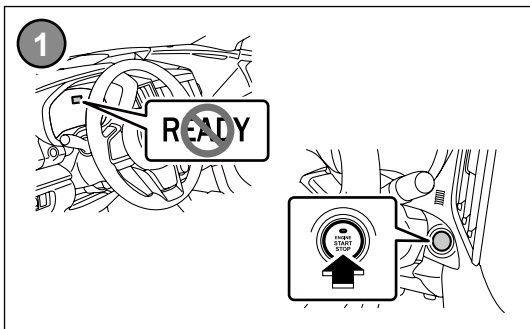
やむを得ず触る場合または触れる恐れのあるときは、絶縁手袋を着用し、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品を絶縁テープで絶縁してください。

1. 高電圧回路の遮断および 12 V 回路の遮断手順

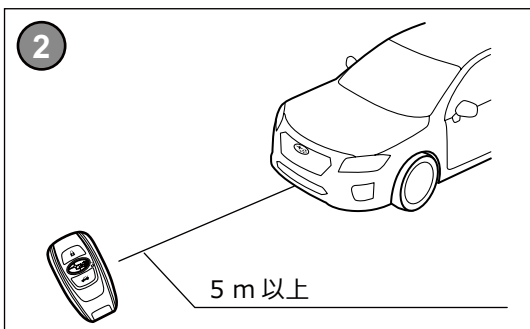
<イグニッションスイッチ OFF>：高電圧回路と 12 V システム回路を OFF にします。



- ① READY 表示灯が消灯しているか確認します。点灯している場合は、プッシュエンジンスイッチを押して、電源を OFF にします。



- ② アクセスキーを 5 m 以上離します。



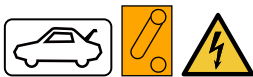
2A. 高電圧回路の遮断

<サービスプラグ取外し>

注意

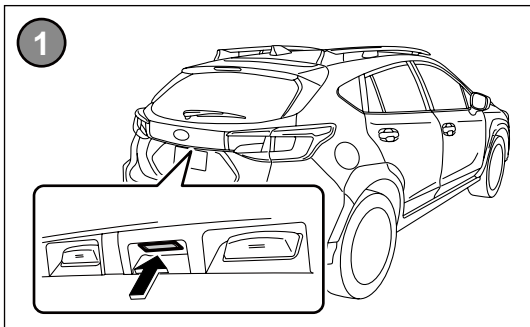


- 高電圧回路を遮断できない場合は、高電圧部品や高電圧バッテリーに触れたり、それらを切断したり開いたりしないでください。
- 負傷しないよう、有機溶媒を扱うのに適した個人用保護具（SCBA など）を着用してください。

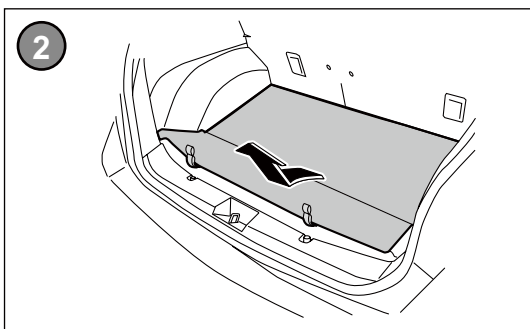


エアバッグの展開を伴う衝突が発生したり、シートベルトプリテンショナーが作動したりした場合は、推進システムの機能が停止します。拘束システムはまだ作動します。

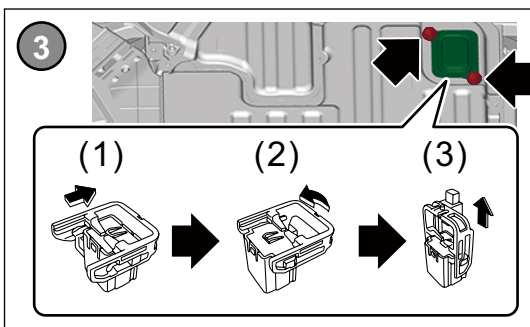
- ① リヤゲートオープナースイッチを押して、リヤゲートを開きます。（P27 参照）



- ② リヤフロアマットを取外します。



- ③ サービスプラグカバーを取外し、サービスプラグを外します。



注意



サービスプラグを取り外した後は、作業中に第三者が誤って再装着しないよう、作業者自身が携行してください。また、車両側コネクタは絶縁テープで覆い、プラグカバーを確実に固定してください。

参考

各車両でのサービスプラグの配置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

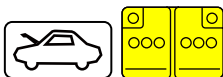
2B. <代替手順> 12 V 回路の遮断

注意

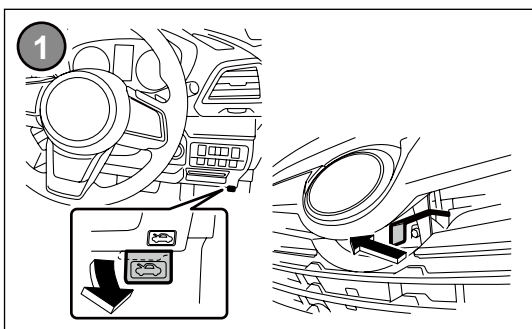


12 V バッテリーのアース端子を切離すことができないと、12 V 回路は遮断できません。短絡やハーネスへの衝撃により SRS エアバッグシステムが突然展開して重傷を負う場合があるため、作業中は注意してください。

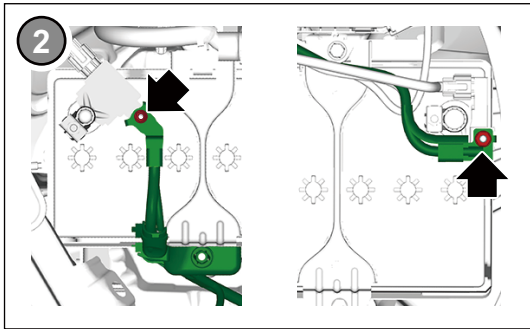
<バッテリーセンサーからアース端子を切離し>



① エンジンフードを開きます。(P26 参照)



② バッテリーマイナス端子を切離します。



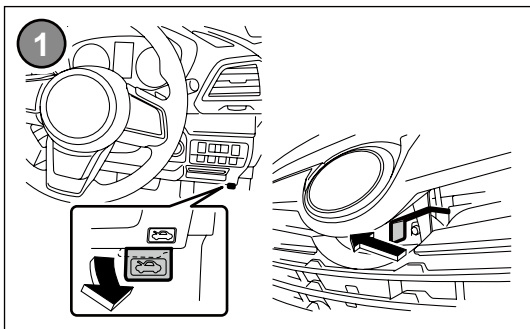
参考

各車両でのバッテリーの配置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

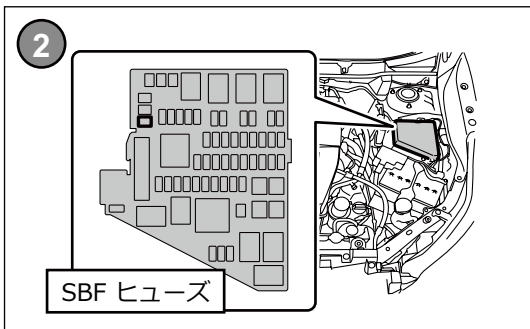
<代替手順、ヒューズ取外し>



① エンジンフードを開きます。(P26 参照)



② ヒューズを取外します。



参考

各車両でのヒューズの配置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

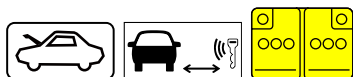
注意



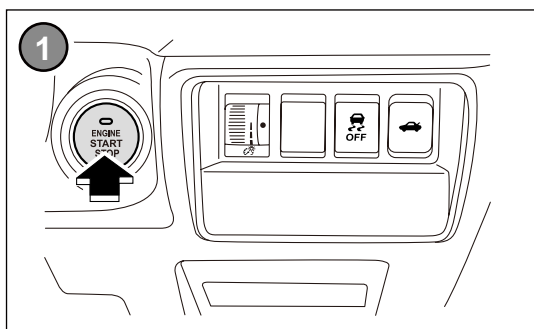
該当のヒューズが確認できない場合、または判別が困難な場合は、下記の項目が全て当てはまるようになるまでヒューズボックスのヒューズを取外してください。

- メーターが消灯している
- エアコンが作動していない
- オーディオが作動していない
- ワイパーが停止している
- ナビやディスプレイが表示されていない

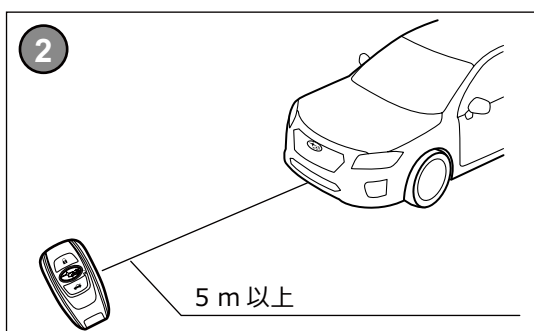
■ ガソリン車



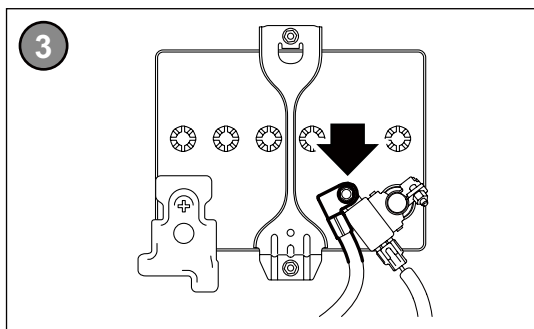
- ① READY 表示灯が消灯しているか確認します。点灯している場合は、プッシュエンジンスイッチを押して、電源を OFF にします。



- ② アクセスキーを 5 m 以上離します。



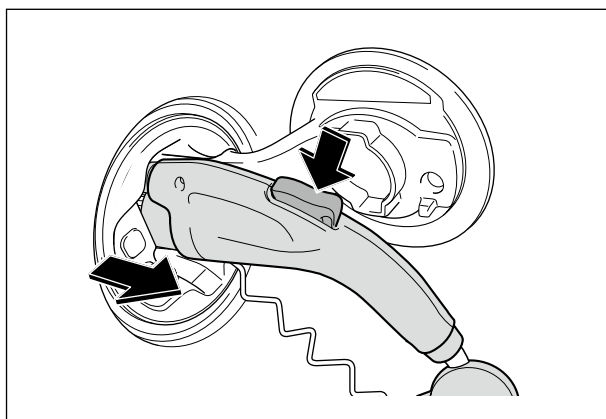
③ バッテリーマイナス端子を切離します。



電気自動車 (EV)

- 電気自動車には、外部電気に接続して高電圧バッテリーを充電する機能が搭載されています。
- 車両の充電インレットに充電ケーブルが接続されている場合は、下記の手順で充電ケーブルを外し、給電を停止させてください。

1. 外部電源側のメインブレーカーを OFF にし、給電を停止させてください。
2. 充電コネクターのロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、充電ケーブルを充電インレットから取外してください。

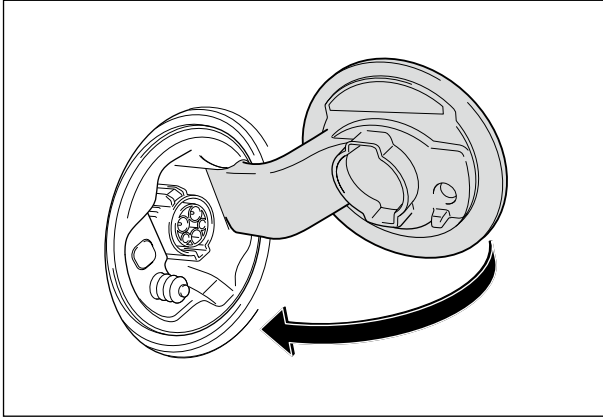


注意

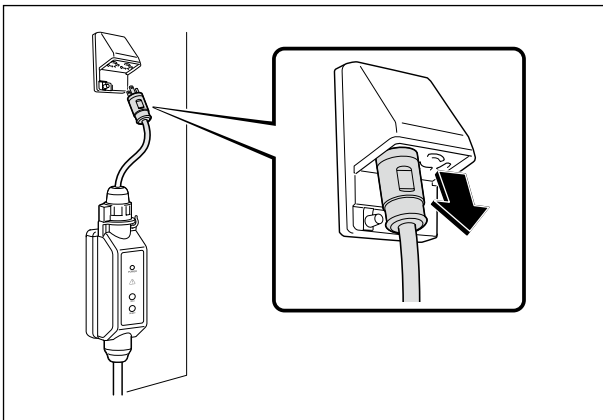


- 電気自動車の一部の車両は、充電ケーブルをロックする機能があります。ドアを解除した状態でコネクタロックスイッチを押すと、ロックが解除できます。
- 普通充電中に充電ケーブルのロックが解除できない場合は、外部電源の電源プラグをコンセントから抜くか、外部電源のメインブレーカーを OFF にして行ってください。
- 急速充電中は、充電ケーブルが解除できません。急速充電の停止操作を行っても充電が停止できない場合は、急速充電スタンドのメインブレーカーを OFF にしてください。

3. 充電インレットの充電口を閉めてください。



4. 外部電源の電源プラグをコンセントから抜くか、外部電源の機能を停止させてください。



4. 乗員へのアクセス

サイドインパクトプロテクションビーム

サイドインパクトプロテクションビームはドアパネル内に配置されています。

高張力鋼板

一部の車両では、通常の高張力鋼板（1GPa 級未満）に比べて約 1.5 倍程度（1.5GPa 級）の強度がある超高張力鋼板を使用しています。

各車両での高張力鋼板の使用部位については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

ガラス

- 自動車に使用されるガラスには、主に合わせガラスと強化ガラスの 2 種類があります。
- 合わせガラスは、主にウィンドシールドガラスに使用されます。
- 強化ガラスは、主にドアガラス、ルーフガラス、リヤゲート（ウインドウ）ガラスに使用されています。
- 合わせガラスと強化ガラスはガラスの隅に「合わせガラス＝“LAMILEX”、強化ガラス＝“TEMPERLITE” または“THERLITE-T”、“TEMPALEX”」の表示から識別できます。

LAMILEX

TEMPERLITE
THERLITE-T
TEMPALEX

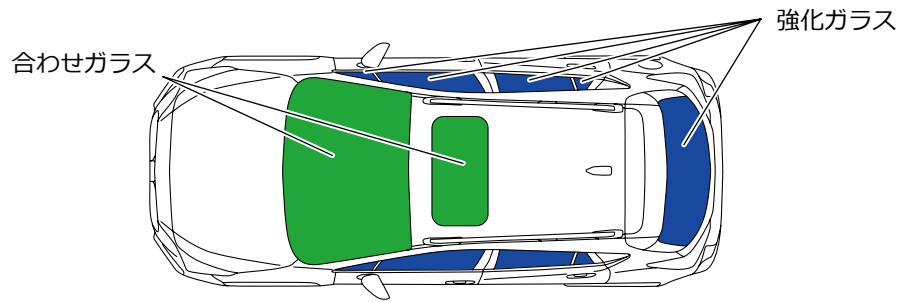
■ 合わせガラス

合わせガラスは、2 枚のガラスの間にフィルムを挟んでいるため、障害物を貫通しにくく、割れても破片が飛び散りにくい特徴があります。

■ 強化ガラス

強化ガラスは、軟化温度付近まで加熱し、急速冷却することで通常のガラスより 3 ～ 5 倍の強度性能を確保しています。破損した場合は、破片は粒上になります。

ガラス（使用部位）



参考

各車両でのガラス使用箇所の詳細については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

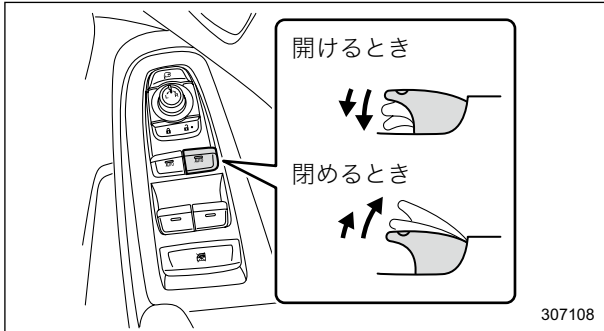
パワーウィンドウ/ドアロック

参考

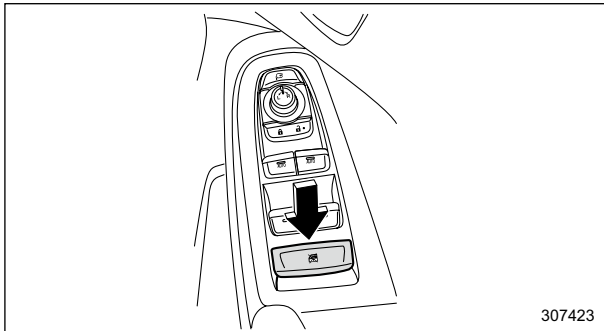
バッテリー（12V）が接続されていないと、操作できなくなります。

バッテリー（12V）の端子を切離す前に、作業を行ってください。

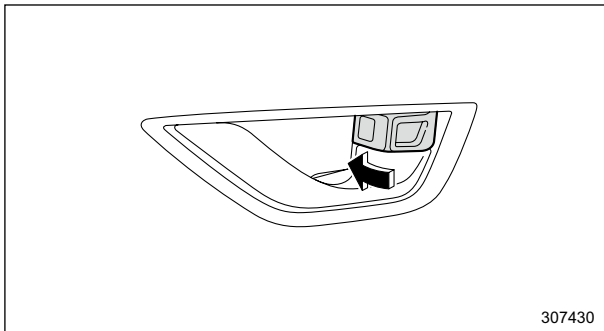
▼パワーウィンドウスイッチ



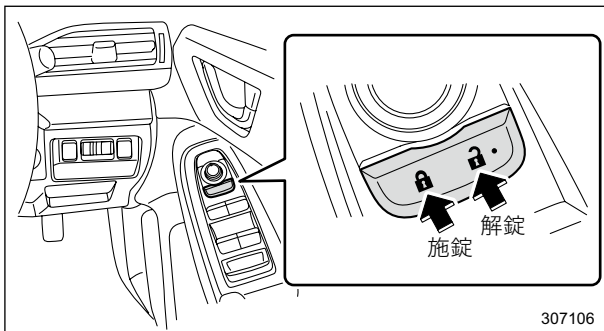
▼ロックスイッチ



▼ドアロック



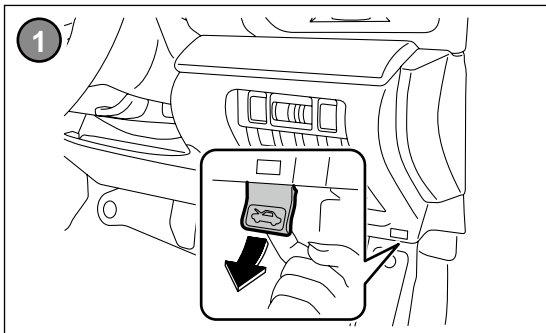
▼集中ドアロック



エンジンフード（ボンネット）



- ① 運転席右下にあるレバーを引くとエンジンフードが少し浮上がります。

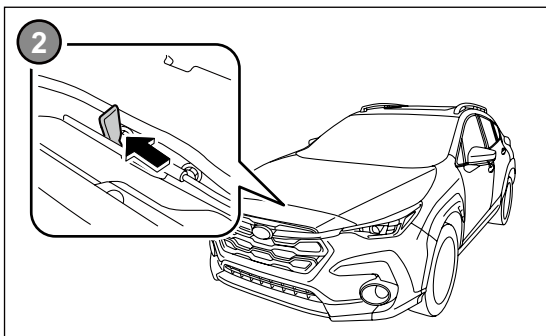


参考

各車両でのレバーの配置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

- ② エンジンフードの隙間に手を入れ、前端中央部のレバーを左に押しながらエンジンフードを持ち上げます。

支持棒をエンジンフードの穴に差し込みエンジンフードを確実に固定します。



参考

車両によってはダンパーが搭載されていて支持棒がない場合もあります。

リヤゲート

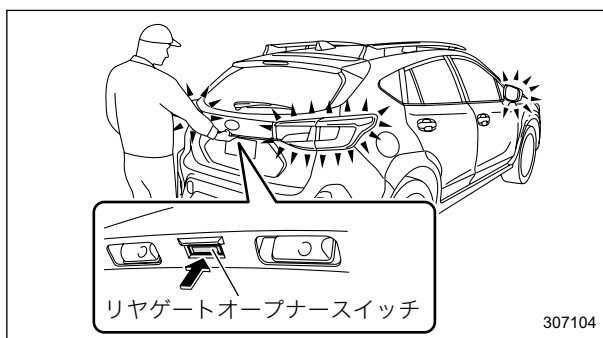


■ 車外からリヤゲートを開ける方法

参考

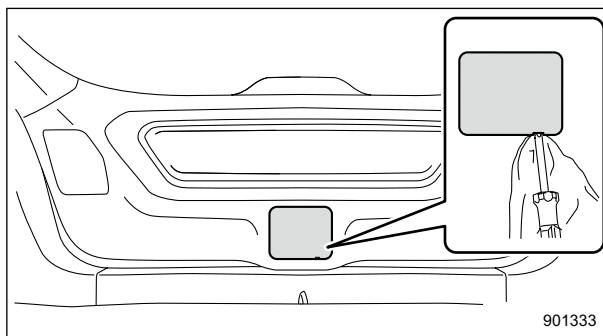
バッテリー（12V）が接続されていないと、操作できなくなります。
バッテリー（12V）の端子を切離す前に、作業を行ってください。

ドアロック解除後、リヤゲートオープナースイッチを押してリヤゲートを少し持ち上げます。
パワーリヤゲートの場合は、アクセスキーを携帯し、リヤゲートオープナースイッチを押すとリヤゲートが自動で開きます。



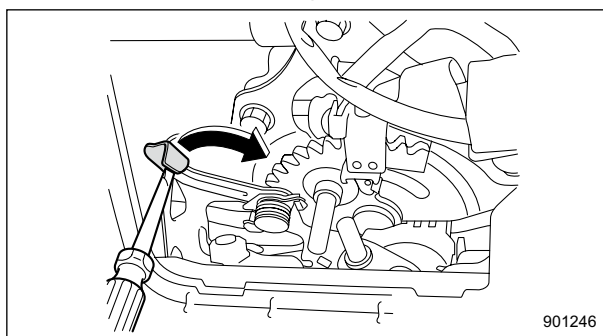
■ 車内からリヤゲートを開ける方法

リヤゲートのトリムカバーを取外します。

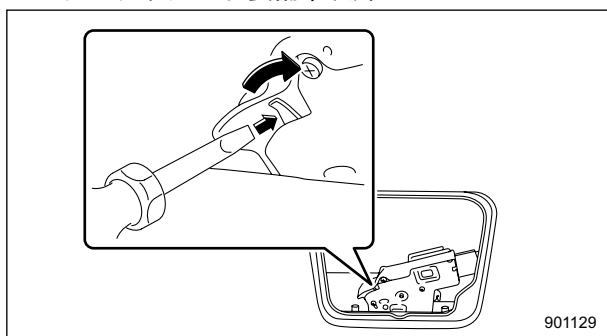


マイナスドライバーなどを使用して、レバーを矢印の方向に動かし、リヤゲートを押しながら開けます。

▼パワーリヤゲート装備車



▼パワーリヤゲート装備車以外



■ 事故後のリヤゲートロック解除

車両に衝突などの強い衝撃が加わった場合、リヤゲートオープナーボタンを操作すると、車外から手でリヤゲートロックを解除できます。この機能により、乗員の救出が可能となります。リヤゲートのロック解除は、ドアロックの状態、車両の停止有無、およびシフトレバーの位置にかかわらず行うことができます。ただし、ロック解除後もリヤゲートは自動的に開かないため、必ず手でリヤゲートを開けてください。




参考

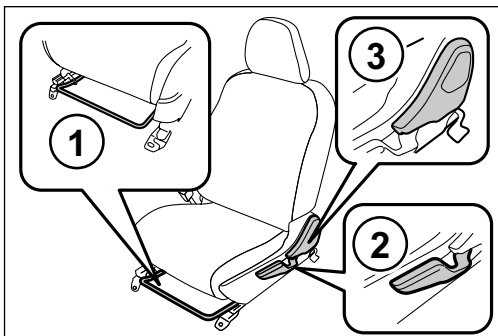
各車両での設定の有無については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

フロントシート

レバーおよびノブを操作してシートポジションの調整を行うマニュアルシートとスイッチ操作でシートポジションを調整するパワーシートがあります。

■ マニュアルシート




- ①  スライド調整：スライドレバーを持ち上げることで、シート位置を前後に調整できます。
- ②  リフター調整：リフターレバーを上下することで、シート座面全体を上下に調整できます。
- ③  リクライニング調整：リクライニングレバーを持ち上げることで、背もたれ位置を前後に調整できます。

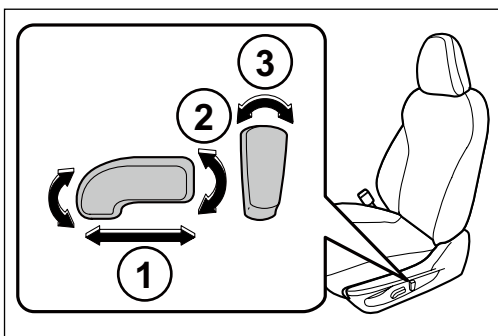


■ パワーシート

参考

バッテリー（12V）が接続されていないと、操作できなくなります。
バッテリー（12V）の端子を切離す前に、作業を行ってください。

- ①  スライド調整：シートスイッチのスライド調整を行うことで、シート位置を前後に調整できます。
- ②  リフター調整：シートスイッチのリフター調整を行うことで、シート座面全体を上下に調整できます。
- ③  リクライニング調整：シートスイッチのリクライニング調整を行うことで、背もたれ位置を前後に調整できます。

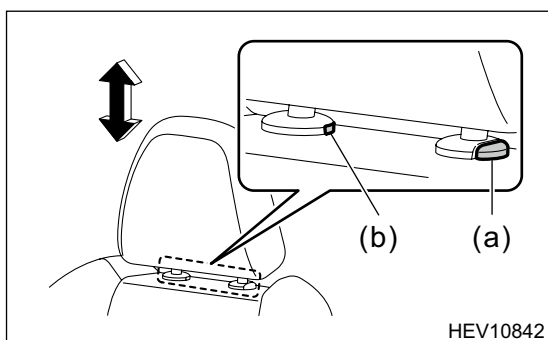


ヘッドレスト

- ヘッドレストは上下および前後の傾斜調整が可能です。
- ヘッドレストを上げる場合はヘッドレストを引上げ、下げる場合は解除ボタンを押しながらヘッドレストを押込みます。
- ヘッドレストを取外す場合は、

■ Aパターン

1. 固定解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを引上げます。
2. ヘッドレストがロックした位置で取外しボタンを押して、再度ヘッドレストを引上げて取外します。

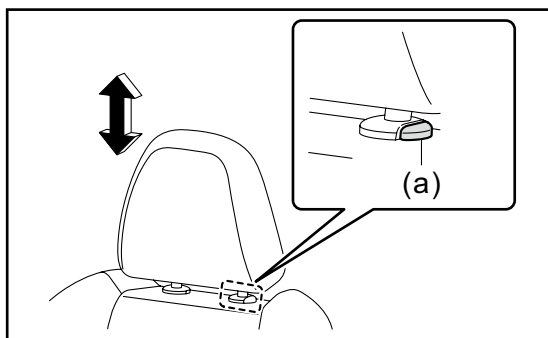


(a) 固定解除ボタン

(b) 取外しボタン

■ Bパターン

1. ヘッドレストを最上段位置にします。
2. 固定解除ボタンを押したまま引上げて取外します。



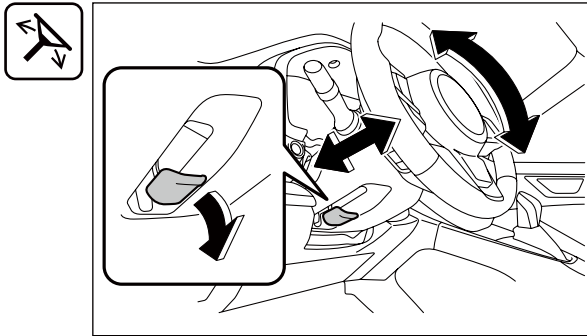
(a) 固定解除ボタン

シートベルト

- シートベルトは解除（PRESS）ボタンを押すことで取外しが可能です。
- 解除ボタンを押しても取外せない場合は、ベルト部を切断してください。

ステアリング

ステアリングコラムの下にステアリング位置の固定解除を行うロックレバーがあります。



車両切断時の注意

警告



- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品（高電圧バッテリーなど）に触れないでください。
やむを得ず触る場合または触れる恐れのあるときは、絶縁手袋を着用し、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品を絶縁テープで絶縁してください。
- 火花による引火などにより救援者・乗員に重大な傷害をおよぼす恐れがあるため、油圧カッターなど火花が飛ばない機器を使用して車両を切断してください。
- エアバッグシステムは、電源 OFF または補機バッテリーマイナス端子の切離し後、60 秒間システムが作動していますので、経過時間を確認してから作業を行ってください。



高電圧による感電の恐れがある箇所。

高電圧による感電の恐れがあるため、切断不可。



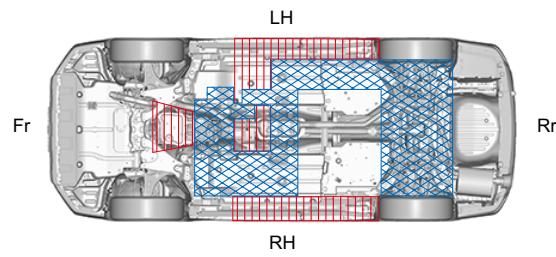
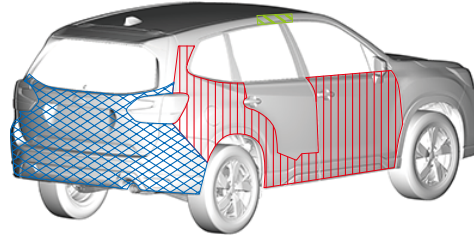
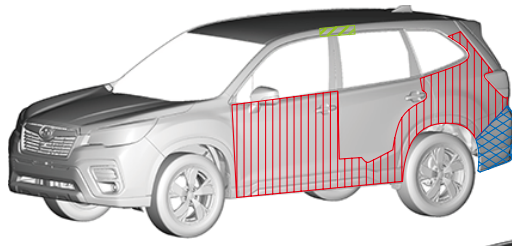
カーテンエアバッグが展開する恐れがある箇所。

カーテンエアバッグ展開用高圧ガスを発生させる装備があるため、切断不可。ただし、すでにカーテンエアバッグが展開していれば切断可。



サイドエアバッグ、カーテンエアバッグが展開する恐れがある箇所。

配線ショート、衝撃によりサイドエアバッグ、カーテンエアバッグが展開する恐れがあるため、切断不可。ただし、切断する側のサイドエアバッグ、カーテンエアバッグがすでに展開している、もしくは電源 OFF 後か補機バッテリーのマイナス端子を切離し後 60 秒以上経過していれば切断可。



HEV10927

5. 蓄積されたエネルギー／液体／ガス／固体

使用される液体類

各車両での使用している液体については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

バッテリー

■ 12 V バッテリー

- 12 V バッテリーは、各種システムの制御を行うコンピューターや電動ドアロック、パワーウィンドウ、パワーシートなどの補器類に電力を供給しています。
- 安全に救援作業を実施いただくために、車両の停止処理（P12 参照）により、車両を完全に停止させる必要があります。作業開始前に 12 V バッテリーのマイナス端子を切離し、電気系統を遮断することで、車両の再始動や電気火災の発生を防止します。
- 12 V バッテリーの電解液には、希硫酸が用いられています。
- 12 V バッテリーは、エンジンルームまたはモータールーム内に設置されています。
- 通常の使用状態では、バッテリーの中身が外に出る危険性はありません。
- 各車両での 12 V バッテリーの配置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

警告



- 12 V バッテリーから発生する水素ガスに引火して爆発する恐れがありますので、12 V バッテリーに火気を近づけたり、12 V バッテリー付近で火花を発生させたりしないでください。
- 希硫酸は人体に有害で、皮膚などに付着すると炎症が生じる恐れがあります。やむを得ず電解液に触れる場合、もしくは触る恐れがある場合は、ゴム手袋、保護メガネなどの適切な保護具を着用して作業を行ってください。

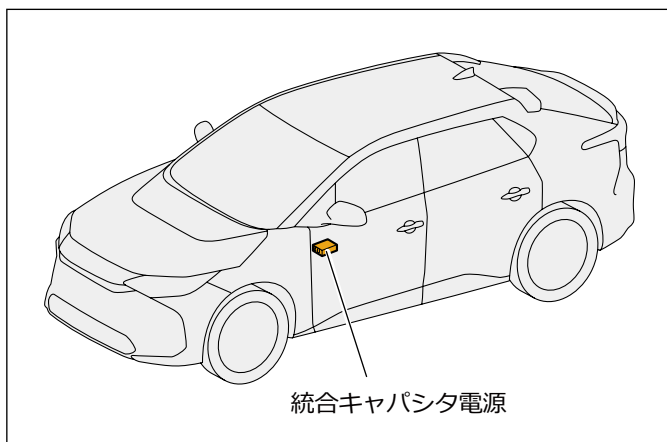
注意



- 車両の停止処理（P12 参照）により、12 V バッテリーが切離されると、電動の補器類の操作ができなくなります。救助活動を容易にするため、12 V バッテリーを切離す前に、ドアガラス開放、ドアロック解除、バックドア開放、補器類の事前処理を行ってください。
- 電解液には、車体の塗装面を浸食する成分が含まれるため、車体に付着すると表面が白濁するなどの変化が生じる恐れがあります。

■ 統合キャパシタ電源

- 統合キャパシタ電源はセンターコンソール内に搭載されています。
- シフトバイワイヤ、リモート駐車などをバッテリー切離し後も作動させます。
- 内部のコンデンサーを用いて電源を確保しています。



注意

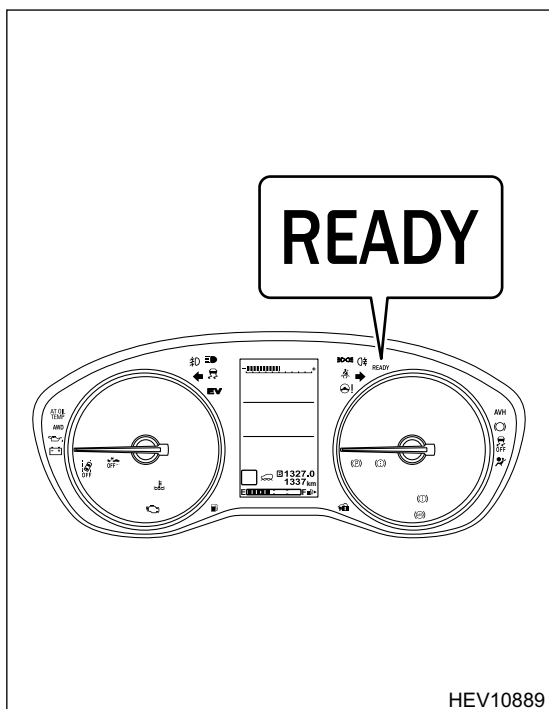


統合キャパシタ電源は、12V バッテリーのマイナス端子を切離し、電源を遮断した後、最大 10 分程度、統合キャパシタ電源のプラス⇄マイナス端子間に約 12V の電圧が保持されます。

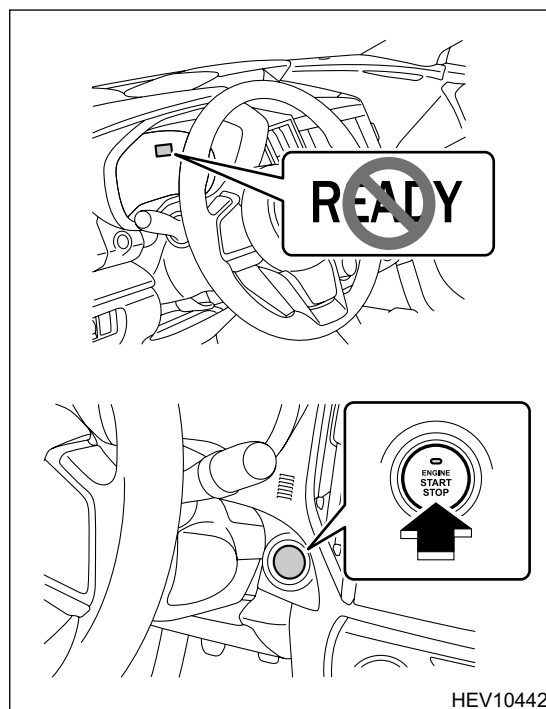
■ 高電圧システム

- ハイブリッド車 (HEV) および電気自動車 (EV) は、駆動力としてモーターを使用しており、モーターを駆動させるために非常に高い電圧を使用しております。これらの車両には、高電圧機器として高電圧バッテリー、インバーター/コンバーター、トランスミッション/トランスアクスル (モーター) などといった高電圧部品や高電圧ケーブルが搭載されています。
- 高電圧機器にはケース/カバーなどが装着されており、高電圧機器であることが示されています。また、高電圧ケーブルは被覆がオレンジ色で統一されています。
- 高電圧機器にはケース/カバーと機器内高電圧導電部は絶縁されています。また、高電圧機器と車体も絶縁されているため、車両が正常な状態においては車体に触れても感電することはありません。
- 高電圧システム起動時は、メーター内の READY 表示灯が点灯します。

▼ INTELLIGENT BOXER システム READY 表示灯



▼車両エンジン停止（INTELLIGENT BOXER システム READY 表示灯消灯）



- 高電圧システムは、イグニッションスイッチやパワースイッチを OFF にすることにより停止状態となり、高電圧が遮断されます。また、衝突を検知（= エアバッグが作動）した場合やシステムが高電圧系の漏電を検知した場合には、自動的に高電圧の遮断を行います。高電圧が遮断されると、READY 表示灯は消灯します。
- 各車両で高電圧機器の詳しい搭載位置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

警告



- 高電圧システムは、車両の停止（P12 参照）後、最大で約 10 分程度電圧を保持しています。高電圧システムが停止状態になっていないと高電圧による重度の火傷および感電により、重大な傷害につながり、最悪の場合、死亡に至る可能性があります。
- 重度の火傷、または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品（高電圧バッテリーなど）に触れないでください。やむを得ず高電圧部品および高電圧ケーブルに触れる場合、または触れる恐れのあるときは、絶縁手袋などの適切な保護具を着用してください。
- 事故処理後の車両保管などで関係者が車両から離れるようなケースでは、他の人が知らずに触れてしまい、感電による重大な傷害や死亡といった事態が発生する恐れがあります。そのようなときは、周囲の人に注意を喚起するため、「高電圧作業中・触るな！」の表示を行ってください。（P36 をコピーして活用してください）

〈ヤマオリ〉

_____ 担当
触るな！
高電圧作業中 

〈ヤマオリ〉

 高電圧作業中
触るな！ _____ 担当

〈ヤマオリ〉

コピーを取り、折って作業中の車両の上に標示する。

■ 高電圧バッテリー

- モーター駆動用の高電圧バッテリーは、非常に高い電圧を蓄えており、ラケージルームまたは車両下部に搭載されています。
- 通常の使用状態では、バッテリーの中身が外に出る危険性はありません。

警告



- 炭酸エステルを主とする可燃性の有機電解液は人体に有害で、電解液に触れた場合には、目・鼻・のど・皮膚に刺激を与える場合があります。また、漏れ出た電解液または燃えているバッテリーから生じた蒸気・煙に触れた場合には、目・鼻・のど・皮膚に刺激を与える場合があります。やむを得ず電解液に触れる場合、もしくは触る恐れがある場合は、ゴム手袋、保護メガネ、保護マスクや自給式呼吸器（SCBA）などの適切な保護具を着用して作業を行ってください。
- 電解液が漏れた場合は、火気から遠ざけて十分に換気を行ってください。漏れた電解液は、ウエスなどに吸収させて密閉容器に回収してください。
- バッテリーのアッセンブリーカバーは、火災を含むいかなる状況でも破損させたり、取り外したりしないでください。高電圧による重度の火傷および感電により、重大な傷害につながり、最悪の場合、死亡に至る可能性があります。

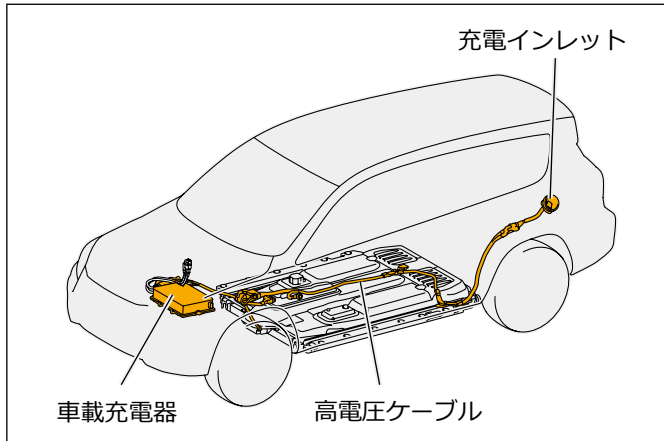
■ 高電圧ケーブル

- 高電圧ケーブルは、被覆がオレンジ色に統一されていて、高電圧バッテリー、インバーター／コンバーター、モーターなどの高電圧部品をつなげています。
- 高電圧ケーブルは、エンジンルームや車両中央（センタートンネル部）またはロッカーパネルから離れたフロア下の左側または右側に配置されています。

■ プラグイン充電システム

- 電気自動車には、外部から高電圧バッテリーに充電するための充電システムが搭載されています。
- プラグイン充電システムは、主に車載充電器や充電インレットで構成されています。
- 車載充電器は、外部電源の交流電圧を直流高電圧に変換・昇圧し、高電圧バッテリーを充電します。
- 外部電源から高電圧バッテリーへ充電するための充電口として、充電インレットが装備されており、急速充電スタンド（直流 500V）で利用できる急速充電インレットが別で装備されています。

- 充電インレットにはオレンジ色の高電圧ケーブルが接続されており、充電中は高電圧が流れています。



警告

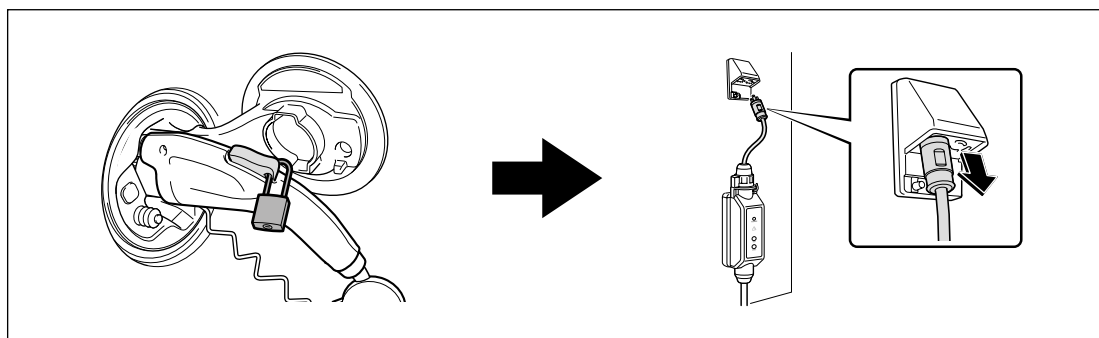


重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、車両や外部電源、充電ケーブルなどが水没している場合は、まず外部電源側のメインブレーカーを OFF にし、給電を停止させてから作業を行ってください。

注意



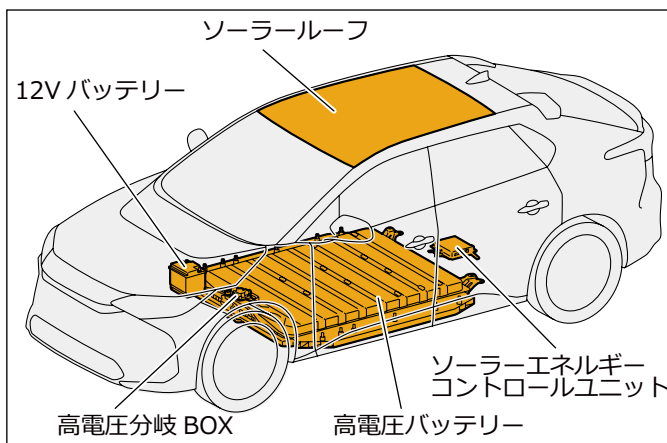
- 電気自動車は、充電ケーブルをロックする機能があります。ドアを解除した状態でコネクターロックスイッチを押すと、ロックが解除できます。
- 普通充電中に充電ケーブルのロックが解除できない場合は、外部電源の電源プラグをコンセントから抜くか、外部電源のメインブレーカーを OFF にして行ってください。



- 急速充電中は、充電ケーブルが解除できません。急速充電の停止操作を行っても充電が停止できない場合は、急速充電スタンドのメインブレーカーを OFF にしてください。

■ ソーラー充電システム

- ソーラー充電システムは、ルーフ一体型の太陽電池であるソーラールーフにより、太陽光発電し、車両の状態に応じ駐車中に高電圧バッテリーを充電し、走行中には 12V バッテリーシステムの消費を補います。
- ソーラー充電システムは、ソーラールーフ、高電圧分岐 BOX、ソーラーエネルギーコントロールユニット、高電圧バッテリーおよび 12V バッテリーで構成されています。
- ソーラーエネルギーコントロールユニットと高電圧バッテリー間にはオレンジ色の高電圧ケーブルが接続されており、高電圧バッテリー充電中は高電圧が印加されています。
- ソーラーエネルギーコントロールユニットは、3 個の DC-DC コンバーターを内蔵し、高電圧バッテリーや補機系統へ供給しています。
- 高電圧分岐 BOX は AC 充電器～高電圧バッテリー間の高電圧配線を分岐し、ソーラーエネルギーコントロールユニットと接続させています。
- 15A ヒューズを設置し、大電流が流れた場合でも危険な事象にならない構造となっています。
- 高電圧バッテリーは、パワースイッチ OFF の時以外には充電されません。
- 日射や気温などの条件により、ソーラールーフは最大約 50V の電圧になり得ます。
- 車両ごとの高電圧機器の搭載位置については、レスキューシートを参照してください。



警告



- ソーラー充電システムにより、車両の停止中においても高電圧システムが電圧を保持している可能性があります。高電圧システムが停止状態になっていないと高電圧による重度の火傷および感電により、重大な傷害につながり、最悪の場合、死亡に至る可能性があります。
- 重度の火傷、または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品に触れないでください。やむを得ず高電圧部品と高電圧ケーブルに触れる場合、または触れる恐れのあるときは、絶縁手袋などの適切な保護具を着用してください。

- 事故処理後の車両保管などで関係者が車両から離れるようなケースでは、他の人が知らずに触れてしまい、感電による重大な傷害や死亡といった事態が発生する恐れがあります。そのようなときは、周囲の人に注意を喚起するため、「高電圧作業中・触るな！」の標示を行ってください。(P36 をコピーして活用してください)
- 車両を停止しても、高電圧バッテリーが充電されている可能性があります。高電圧バッテリーの充電を止める場合は、12V バッテリーのマイナス端子を切離してください。
- ソーラーroofは、わずかな日光でも発電します。発電を止める場合は、日光を通さない素材でソーラーroof全体を覆ってください。

液漏れへの対応

■ 12 V バッテリー

12 V バッテリーの電解液には、希硫酸が用いられています。

警告



希硫酸は人体に有害で、皮膚などに付着すると炎症が生じる恐れがあります。やむを得ず電解液に触れる場合、もしくは触る恐れがある場合は、ゴム手袋、保護メガネなどの適切な保護具を着用して作業を行ってください。

注意



電解液には、車体の塗装面を浸食する成分が含まれているため、車体に付着すると表面が白濁するなど変化が生じる恐れがあります。

■ 高電圧バッテリー



電解液には、炭酸エステルを主とする可燃性の有機電解液が用いられています。電解液は電極体およびセパレータに含浸させてありますが、万一駆動用電池（高電圧バッテリー）が破損した場合、流出する恐れがあります。ただし多量に流出する恐れはありません。

警告



- 炭酸エステルを主とする可燃性の有機電解液は人体に有害です。電解液に触れたまたは燃えているバッテリーから生じた蒸気・煙に触れた場合には、目・鼻・のど・皮膚に刺激を与える場合があります。やむを得ず電解液に触れる場合、もしくは触る恐れがある場合は、ゴム手袋、保護メガネ、保護マスクや自給式呼吸器（SCBA）などの適切な保護具を着用して作業を行ってください。
- 電解液が漏れた場合は、火気から遠ざけて十分に換気を行ってください。漏れた電解液は、ウエスなどに吸収させて密閉容器に回収してください。

■ 冷却用 LLC

エンジンやインバーターなどの冷却に使用される LLC（Long Life Coolant）には、凍結温度を低下させるエチレングリコールと、各種金属の防食のための防食添加剤が配合されています。

■ 潤滑オイル

エンジンやミッション、ギヤなどの潤滑に用いられるオイルには、鉱物油や合成油が使用されています。

■ ブレーキフルード

ブレーキフルードには、合成油として数種類のグリコールエーテルと各種金属の防食のための防食添加剤が配合されています。

注意



ブレーキフルードには、車体の塗装面を浸食する成分が含まれているため、車体に付着すると塗装面が剥がれる恐れがあります。

■ パワーステアリングフルード

パワーステアリングフルードは、鉱物油や合成油が使用されています。

■ ウィンドウウォッシャー液

ウィンドウウォッシャー液には、凍結温度を低下させるためのアルコールが配合されています。

ガス漏れへの対応

■ 冷媒



- エアコン用の冷媒ガスには、炭素とフッ素化合物である R-134a または R-1234yf が用いられています。
- 無色、無臭で人体に無害です。

■ 窒素 (N₂) ガス



- ガス封入ダンパーに窒素 (N₂) が用いられています。
- 無色、無臭で人体に無害です。

高電圧作業時の保護具の着用

- 絶縁手袋
- ゴム手袋（電解液処理に対応するもの）
- 保護メガネ（眼球保護用メガネ）
- 電気用ゴム長靴
- 耐溶剤エプロン（有機溶剤用）
- 保護マスク（有機ガス用）

注意



もし電解液に触れた場合は、下記のガイドラインに従ってください。

■ 電解液が付着した場合

- 電解液が直接皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水および石鹼または皮膚用の洗剤を使用して、電解液を確実に洗い流してください。
- 電解液が付着した手袋などで目をこすらないように注意してください。
- 外傷や刺激痛がある場合は、専門医の診断を受けてください。

■ 電解液が目に入った場合

電解液が目に入った場合は、大声で救援を求め、目をこすらずに直ちに大量の水でまぶたの裏側まで15分以上洗い流し、専門医の診断を受けてください。

■ 電解液を誤飲した場合

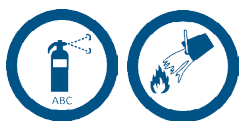
- 無理に吐かせないでください。
- 負傷者に大量の水を飲ませて電解液を薄めてください。
- 意識を失っている場合は水を飲ませないでください。
- 自発的に嘔吐が起こった場合は、負傷者が窒息しないようにしてください。
- 負傷者を最寄りの救急医療機関へ移送してください。

■ 電解液の蒸気を吸い込んだ場合

- 直ちに鼻をかみ、うがいをしてください。
- 負傷者を安全な場所に運び、酸素を吸入させてください。
- 負傷者を最寄りの救急医療機関へ移送してください。

6. 火災の場合

初期消火活動を行う場合は、冷却も考慮し消火栓などから大量の水で消火してください。



警告



車両火災が発生すると、車両に使用されているプラスチックなどから人体に有害なガスが発生します。消火の際には、マスクなどの適切な保護具を着用して作業を行ってください。

■ 消火剤

- 水が消火剤として適しています。
- 消火器を用いて消火を行う場合は、普通火災（固形物などが燃える一般的な火災）に加えて、油火災（ガソリン、石油、油などによる火災）および電気火災（電気配線、電気機器などによる火災）に有効な消火器で消火してください。

■ 高電圧バッテリー搭載車



- ハイブリッド車（HEV）および電気自動車（EV）には高電圧バッテリーが搭載されています。
- 電池を冷却させるために、大量の水で消火を行ってください。
- 車両ごとの高電圧バッテリーの配置については、レスキューシートを参照してください。
- バッテリーの火災は、煙や火炎の避けるため、風上から消火を行ってください。
- バッテリーを冷却するために、大量の水で消火を行ってください。

高電圧バッテリーに直接水をかけると、冷却効果が高まります。ドアを開けるまたは、窓ガラスを割って消火を行ってください。

- 高電圧バッテリーの損傷したセルは、熱暴走や再発火の可能性があります。
熱暴走や再発火を防ぐために、救援者は取り残されたエネルギーのリスクを認識する必要があります。熱暴走の主な原因は、高電圧バッテリーセル内の短絡と、それに伴うセルの内部温度の上昇です。一部のセルから熱暴走が発生すると、多くのセルに延焼する可能性があります。
- 事故後、エネルギーは損傷していない高電圧バッテリーセル内に残ります。
取り残されたエネルギーによって、消火後も高電圧バッテリーが複数回再発火する可能性があります。
- 炭酸エステルを主とする可燃性の有機電解液は人体に有害です。電解液に触れたまたは燃えているバッテリーから生じた蒸気・煙に触れた場合には、目・鼻・のど・皮膚に刺激を与える場合があります。やむを得ず電解液に触れる場合、もしくは触る恐れがある場合は、ゴム手袋、保護メガネ、保護マスクや自給式呼吸器（SCBA）などの適切な保護具を着用して作業を行ってください。

警告



- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品（高電圧バッテリーなど）に触れないでください。
やむを得ず触る場合または触れる恐れのあるときは、絶縁手袋を着用し、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品を絶縁テープで絶縁してください。
- 少量の水で消火を行うと、高電圧バッテリー内で短絡（ショート）が発生し、火災が再発生する恐れがあります。

注意



- 高電圧バッテリーへの大量の放水が困難であると判断される場合は、高電圧バッテリーを燃え尽きさせることを推奨します。
- 高電圧バッテリー付近から液体の漏れ、火花、煙、異音などが発生している場合は、バッテリー火災の恐れがあります。

7. 水没の場合

車両を水から引き上げ、車両の固定（P7）および車両の停止（P12）を行ってから救援作業を行ってください。

注意



- 水没した車両は、電食（水による電気化学作用により、配線や基盤が腐食する現象）の影響により短絡（ショート）が発生し、時間経過後に車両火災が発生する恐れがあります。
- 車両火災の恐れがあるため、水没した車両は絶対にイグニッションスイッチやパワースイッチを ACC や ON にしないでください。

■ 高電圧バッテリー搭載車



- 高電圧バッテリーを搭載した車両が部分的または完全に水没した場合、車体と高電圧回路は絶縁されているため、車体に触っても感電の心配はありません。
- 水と車両も等電位になっているため、水の中に入っても感電の心配はありません。

警告



- むき出しになったオレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧バッテリーを含む高電圧機器に触れると、電位が発生して感電する恐れがあります。
- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品（高電圧バッテリーなど）に触れないでください。やむを得ず触る場合または触れる恐れのあるときは、絶縁手袋を着用し、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品を絶縁テープで絶縁してください。

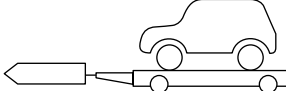

8. けん引／搬送／保管

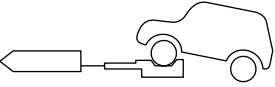
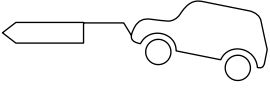
けん引

警告



- 車両運搬時には絶縁手袋を着用してサービスプラグを抜いてから運搬を行ってください。
- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品（高電圧バッテリーなど）に触れないでください。やむを得ず触る場合または触れる恐れのあるときは、絶縁手袋を着用し、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品を絶縁テープで絶縁してください。

けん引方法	注意事項	SHEV 以外		SHEV
		AWD	FWD	
4 輪上げ（車載）  NT-00023	AWD モデルは、4 輪共上げてけん引することが基本である。	○	○	○
□ープ  NT-00024	<ul style="list-style-type: none"> • 前後輪共正常な回転をするか確認する。 • CVT モデルの走行条件： 走行速度 30km/h (19MPH) 以下。 走行距離 30km (19miles) 以下。 	▲	▲	×

けん引方法	注意事項	SHEV 以外		SHEV
		AWD	FWD	
前輪上げ  NT-00025	AWD モデルは禁止。	×	○	×
前輪吊上げ  NT-00026	<ul style="list-style-type: none"> バンパー、フロントグリルなどを破損するため禁止。 バンパーでは、持ち上げないこと。 	×	×	×

○印：OK、×印：禁止、▲印：条件付きOK

参考

各車両でのけん引方法については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

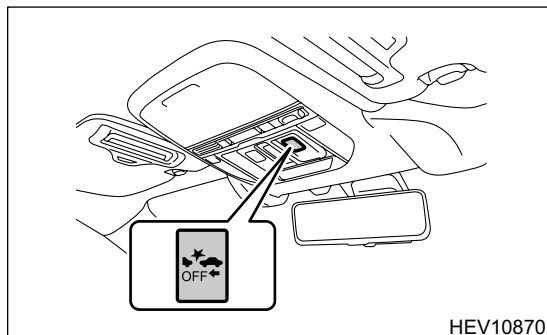
注意



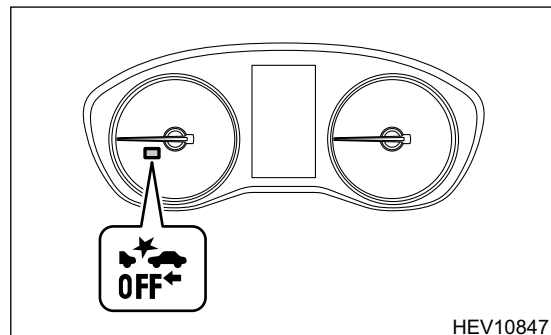
- 補機バッテリーが上がっている場合、または補機バッテリーのマイナス端子を切離した状態ではPレンジから切替わらないことがあります。
- トランスミッション内部および駆動系の故障のときは、4輪上げ（車載）の方法でけん引してください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、4輪上げ（車載）の方法でけん引してください。
ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなる恐れがあります。
- 後輪上げは不安定のため行わないでください。
- けん引フック（アイボルト）は、けん引時以外に使用しないでください。

- けん引フック (アイボルト) は、けん引後必ず取外してください。取付けたままにしておくと、衝撃を受けたときにエアバッグおよびオートディスコネクトが正常に作動しないことがあります。また、衝突性能に影響することがあります。
- ロープけん引時は下記の項目に注意してください
 - 故障の内容によりけん引できない場合があります。
 - 電源を「ACC」または「ON」にしてステアリングが自由に動くことを確認してください。
 - けん引時は電源 ON・エンジン OFF (ハイブリッドシステムは作動させない) にしてください。
 - けん引時はシフトレバーをNの位置にしてください。
 - タイヤの引きずりが発生しないように、パーキングブレーキを解除してください。
 - 電源 ON・エンジン OFF (ハイブリッドシステムは作動させない) およびPレンジ以外の状態でけん引する際、「車両接近通報」が吹鳴する場合がありますが、不具合ではありません。
 - 急発進などでロープに衝撃を与えないよう運転してください。
 - パワーステアリングが働かないため、ハンドル操作が重くなるので注意してください。(エンジン停止時)
 - ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキの利きが悪くなるので注意してください。(エンジン停止時)
 - スバルアイサイト搭載車をけん引する場合、必ずプリクラッシュブレーキ OFF スイッチを長押しし、プリクラッシュブレーキ機能を OFF にしてください。(メーター内のプリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯していることを確認してください。)

▼プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ

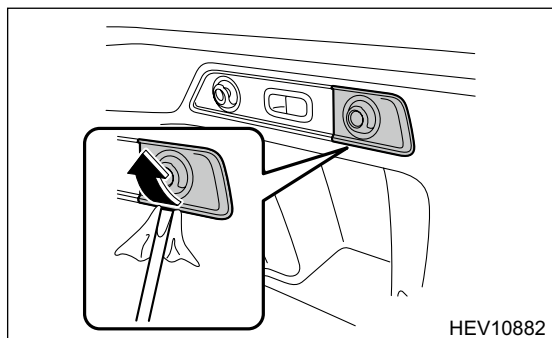


▼プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯

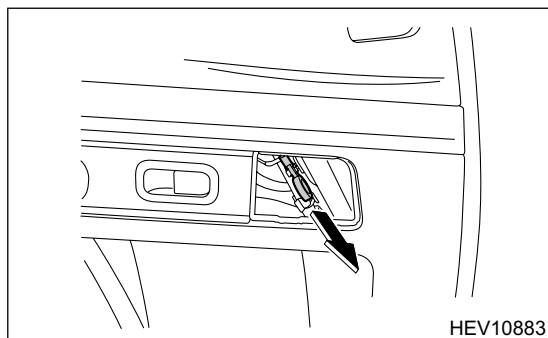


- フューエルリッドを解錠するには、運転席ドアの集中ドアロックスイッチの（解錠）、アクセスキーの（解錠）ボタンを押す、またはプッシュエンジンスイッチを ACC または OFF にします。フューエルリッドが解錠できないときは、下記の操作を行ってください（電動フューエルロック）
 - カーゴルーム右側の買い物フックパネルを、ドライバーを使って外してください。レバーを外して、力を入れずに車両後方へ引く（1 cm 位）と解錠します。

▼フックパネル



▼レバー



電動パーキングブレーキの手動による解除方法

注意



- 電動パーキングブレーキを緊急で解除する場合のみ行ってください。
- 手動による解除を行った場合、パーキングアクチュエーターを交換してください。

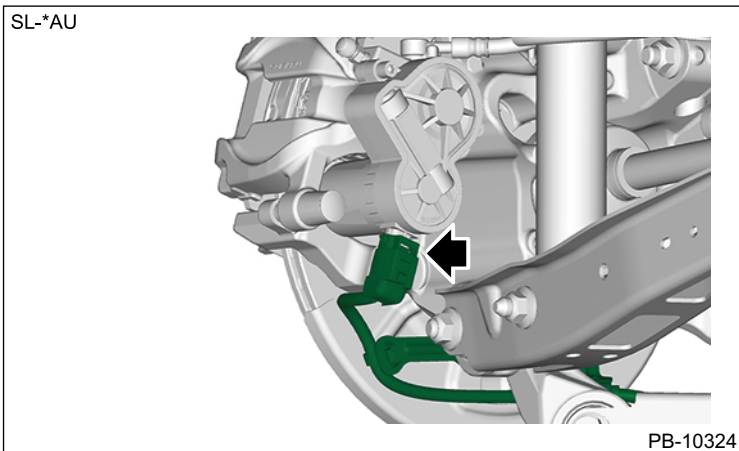
1. 車両を安全な場所で駐車し、フロントタイヤを車輪止めで固定してください。
2. 12V バッテリーからマイナス端子を切離してください。

注意



コネクター周辺に泥や水などが付着している場合は、清掃してから切離してください。

3. 車両のリア側をジャッキアップし、リジットラックなどを使用して支持してください。
4. 解除されていない側のリアホイールを取外してください。
5. パーキングブレーキアクチュエーターからコネクターを切離してください。

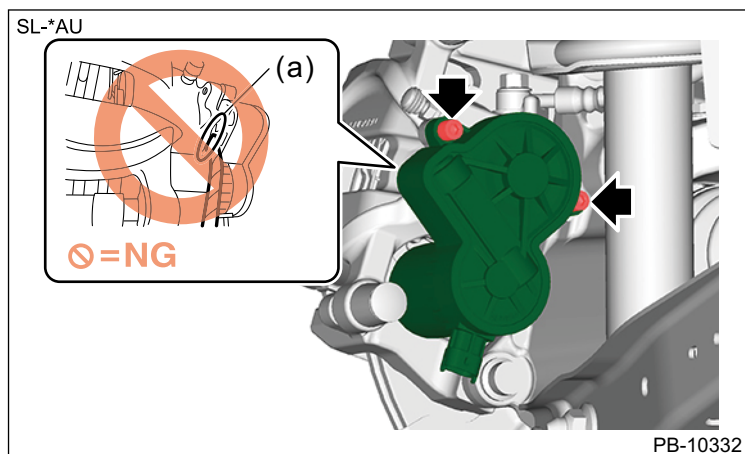


6. 六角レンチを使用して、パーキングブレーキからボルトを外してください。

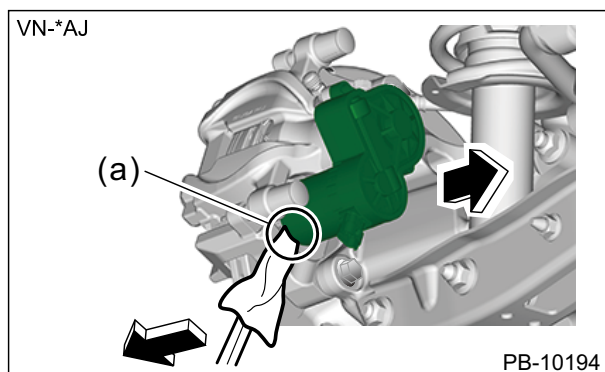
注意



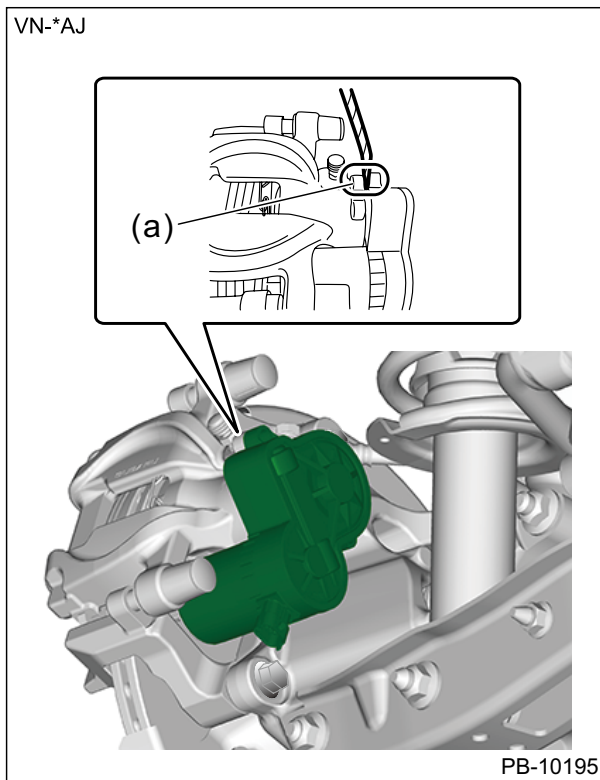
- パーキングブレーキアクチュエーターは、モーターによって発生する反力により回転します。手や指を挟まないよう注意してください。
- パーキングブレーキアクチュエーターのシール面 (a) には、工具を差し込まないでください。



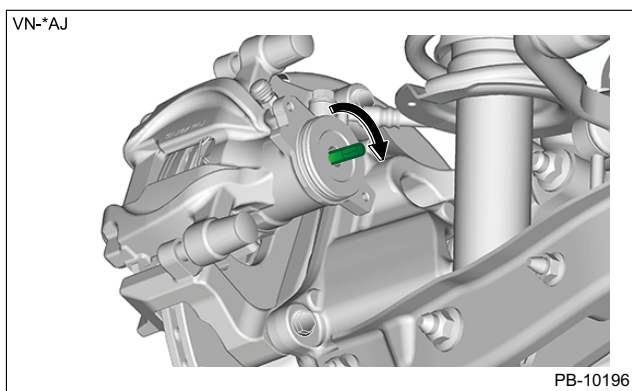
7. ドライバーなどを (a) 部に差し込み、パーキングブレーキアクチュエーターを手前に押し出してください。



8. パーキングブレーキアクチュエーターを押出してできた隙間にドライバーなどを入れ取外してください。



9. トルクス® E12 を使用して、スピンドルボルトを時計方向に約 1 回転させてください。



10. パーキングブレーキのロックが解除され、ディスクローターが回転することを確認してください。

事故車の保管

ガソリンやオイルなどの油脂類を抜いた後、12 V バッテリーのマイナス端子を切離した状態で保管してください。

■ 水没車

通常の処置に加え、水を排出した状態で保管してください。

注意



- 水没した車両は、電食（水による電気化学作用により、配線や基盤が腐食する現象）の影響により短絡（ショート）が発生し、時間経過後に車両火災が発生する恐れがあります。水没した車両を保管する場合は、風通しの良い場所で、他のものから 15 m 以上離して保管してください。
- 車両火災の恐れがあるため、水没した車両は絶対にイグニッションスイッチやパワースイッチを ACC や ON にしないでください。

■ 高電圧バッテリー搭載車

通常の処置に加え、サービスプラグを外した状態で保管してください。

警告



- サービスプラグは高電圧部品です。保護具無しで触れると重度の火傷、または感電による重大な傷害や死亡といった事態が発生する恐れがあり危険です。サービスプラグに触れる場合は、絶縁手袋など適切な保護具を着用してください。
- 車両停止（P12 参照）を行い、サービスプラグを抜いた後でも、高電圧バッテリー単体には高電圧が蓄えられています。
- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品（高電圧バッテリーなど）に触れないでください。やむを得ず触る場合または触れる恐れのあるときは、絶縁手袋を着用し、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品を絶縁テープで絶縁してください。
- 事故処理後の車両保管などで関係者が車両から離れるようなケースでは、他の人が知らずに触れてしまい、感電による重大な傷害や死亡といった事態が発生する恐れがあります。そのようなときは、周囲の人に注意を喚起するため、「高電圧作業中・触るな！」の表示を行ってください。（P36 をコピーして活用してください）

注意



高電圧バッテリーは、事故時の衝撃や電食の影響により、内部で短絡（ショート）が発生し、時間経過後に車両火災が発生する恐れがあります。高電圧バッテリーを搭載した車両を保管する場合は、風通しの良い場所で、他のものから 15 m 以上離して保管してください。

9. 重要な追加情報

ガス封入ダンパー

- 車両には、サスペンションやボンネットなど様々な箇所・用途でガス封入ダンパーが使用されています。
- 窒素（N2）ガスは、無色、無臭で、人体に無害です。
- 各車両でのガス封入ダンパーの搭載位置については、車両ごとのレスキューシートを参照してください。

警告



- 車両火災発生時、ガス封入ダンパーに熱が加えられている場合は、封入されている窒素（N2）ガスが膨張することによりダンパーが破裂し、部品が飛散して思わぬケガをする恐れがあります。
- ガス封入ダンパーを切断すると、封入されている窒素（N2）ガスにより、切り粉などが飛散する恐れがあります。やむを得ず切断する場合は、保護メガネなどの適切な保護具を着用して作業してください。

■ フロント・リヤサスペンションダンパー

サスペンションダンパーは、フロント・リヤサスペンションに搭載されています。

■ エンジンフード（ボンネット）ダンパー

エンジンフードダンパーは、エンジンフードの支持部に搭載されています。

■ トランク・リヤゲートダンパー

各ダンパーは、トランクまたはリヤゲートの支持部に搭載されています。

10. 使用したピクトグラムの説明

	空調構成部品		ボンネット		トランク： ラゲッジルーム
	ステアリングホイール： チルト操作		座席調整：高さ		座席調節：前後
	座席調整：傾き		警告標識		警告電気
	スマートキーを取外す		熱赤外線式カメラを使用		爆発性
	可燃性		加圧ガス類		腐食性
	人の健康に有害		急性毒性		消火には ABC 粉末を使用する
	消火には水を使用する		ジャッキ支持位置		高電圧無効化フューズ ボックス
	バッテリー低電圧		高電圧を切断する高電 圧装置		高電圧電力ケーブル